

【高等学校の部】最優秀賞（大分県教育の日推進会議会長賞）

私を支える言葉

学校法人扇城学園 東九州龍谷高等学校 1年
岡部 詩音



「しおんならできるよ。だって私の妹やもん。」この言葉は、思い出すたびに私に勇気をくれます。私には四つ離れた姉がいます。私と姉は、とても仲がよく友達みたいな存在です。私は小さい頃から姉の事が大好きで、ずっと姉に影響されて物事を決めてきました。私がバレーボールを始めた事、高校を決めた理由、すべて姉が関係しています。

私が小学六年生の時、姉が寮に入るため家を出て行きました。毎日笑い合っていた姉がいない生活は寂しかったですが、徐々に慣れていきました。姉のいない初めての誕生日。姉からプレゼントが送られてきました。プレゼントは姉の手作りのアルバムでした。その中に書いてあったのがあのことばです。緊張した時、自信がない時に私は必ず自分に言い聞かせるようにしています。そうすると、緊張がほぐれて身体が軽くなる気がするのです。

姉は最後の大会で日本一を獲り、家に帰省してきました。中学生の私は、自分たちが先輩となり全国大会出場を目指している中、大きな問題点が一つありました。指導者がいないのです。姉に相談すると、「私が行く。」と言い、懸命に教えてくれました。私は怒られる事がほとんどでしたが、諦めずに姉を信じてがんばっていました。しかし、世界的に問題となっているコロナウイルス感染拡大予防のため、大会は中止。私は悔しくてたまりませんでした。何のためにがんばったのか、目標がなくなり、部員全員が放心状態でした。その時、顧問から「地区大会は開催される。」と聞いた時、少し心が軽くなり、チームの目標を「地区完全優勝」に切り換え、残りの時間の練習も大切にしました。そして試合当日。姉からは「思いっきりやってこい。」と一言。姉が近くで見守る中、見事に完全優勝を果たし、姉に一人ずつ感謝を伝えると、姉から全員に「最後に最高のバレーを見せてくれてありがとう。」と涙目で言ってくれました。感謝を伝えないといけないのは私の方なのに、素直に「ありがとう。」と言える姉はすごいなと思いました。

そして私は今、また姉の背中をおいかけて姉の母校に入学しました。私が家を出る時に「そんなに甘くないからね。」と言われ、今はその言葉の意味が分かります。苦しい時や、つらい事の方が多いですが、そんな時は、あの言葉を言いきかせて何とか立ち直っています。今までは、ずっと姉の背中を追ってきました。ですが、この三年間で姉を追い越せるように、あの言葉に支えてもらいながら耐え抜きたいと思います。私には、どうしても耐え抜かなくてはならない理由があります。それは、姉との約束です。姉が日本一を獲った時、家族全員メダルをかけてもらっていましたが、でも私はかけてもらわず、「自分で獲る。」と言い、姉からも「自分で獲れ。」と言われました。だから、私は必ず日本一を獲り、姉にもう一度日本一の重みを思い出させてあげたいです。この目標は決して簡単に叶う目標ではない事は分かっています。だから、私はこれから日本一の努力をし、常に日本一の意識を持って生活していきたいと思います。たくさんの人に支えてもらい、たくさんの人に応援されるような人になるために、私は精一杯努力を続けます。